

「主体的・協働的に学ぶ社会科指導の工夫」

【研究の内容】

(1) 第1回 7月18日(土)

- ①「思考・判断・表現」の観点の評価規準について、定期考査問題を持ち寄り、協議した。
- ②協議の中で、以下のことがまとめられた。
 - ・授業で扱った学習内容について問うのは、「知識・理解」である。
 - ・いわゆる「アクティブラーニング」では、評価をどうするかという問題があるが、論議できる力を身に付けさせることが大切。
 - ・グループ活動での評価場面は、生徒の言語活動を通して、変容している状況をつかむことが大切である。
- ③地図の読み取りの指導方法として
 - ・「色」に注目させる
 - ・縮尺に注目させる
 - ・まとめの作業に白地図を作成させる
 - ・実生活を思い浮かべられるような読み取りの力が付くと良い
- ④平和学習をする際のポイントとして、
 - ・多面的な見方・考え方ができる多様な資料を用意する
 - ・教師の考えを押しつけない
 - ・資料を基に考えさせることが大切
 - ・身近な生活、次の社会へ生かせる良い学習課題について考えさせる。
 - ・出来事についてまとめさせ、自分の問題として書かせることが大切。
- ⑤先進事例として、「次期学習指導要領の動向と生徒の主体的な学びー「教科センター方式」「協働」「探求」「ICT」ー」について都中社研研究部員より報告がされた。
- ⑥講師の先生より、「社会科の授業を実施するに当たっての心構え」について、ご指導いただいた。

(2) 第2回 12月19日(土)

- ①各自の研究授業の指導案を持ち寄り、協議を進めた。
- ②協議の中で、以下のことがまとめられた。
 - ・思考のトレーニングをさせる教材の工夫
 - ・子供同士の学びは、より主体的な学習へつながる。
 - ・グループ活動は、ただ話し合いをさせればよいというものではない。「ねらいに迫っているか」「話し合いをさせるに足る課題か」を吟味する必要がある。グループ活動をすることで、自分の考えが深まり、広がる学習課題でなければならない。
- ③発表報告として、以下の実践報告がされた。

- (i) 全国中学校社会科教育研究大会岐阜大会での都中社研地理専門委員会として『持続可能な開発のための教育』の視点を取り入れた地理的分野の学習指導」について
 - ・指導の総括的な評価方法として、「ルーブリック」の提示や「パフォーマンス評価」を提案
 - ・「関東地方」の指導案

(ii) 東京都視聴覚教育研究会東京大会での発表として、

「地理的分野における、視聴覚教材を活用した主体的・協働的な学習」について

- ・動画を活用した授業では、具体的な生活の様子を理解させるのに有効な手段であった。
- ・より高次のグループ・ディスカッションをするために、動画だけでなく、他の資料との組み合わせも必要。

(iii) 板橋区ICT授業研究実験校として、

- ・公開授業での指導案の提示、研究報告がされた。
- ・ICT活用について、「C」である「コミュニケーション」を大切にしなければならない。
- ・ICTは、目標達成のための道具。教科の授業力の向上が一番大切。
- ・情報モラルについては、ICT活用の場で疑似体験させる必要がある。
- ・グループ学習では、教師のコーディネート力が求められる。ホワイトボードは有効な手段である。
- ・「関心・意欲」→「知識」や「技能」を使って「思考・判断」→「表現」→「態度化」へ

(iv) 指導教諭の示範授業として、

「近世の日本」から江戸時代の農民の様子について、地域教材を活用した実践報告

- ・「いつ、どこで」「誰が」「何のために」「誰に対して」「何をした」を資料から読み取らせながら、「自分ならどうするのか」ということについて、グループでの話し合いを経て、自分の考えを書かせる。
- ・授業で学んだ知識を身近な地域や生活で結びつくように工夫。

(v) 青梅市中学校教育研究会社会科部会の研究授業で、講師を務めた校長先生から、指導案と「主体的・協働的な学習」について、資料提供がされた。

(vi) 日本社会科教育学会において、

「学習課題に対する視点の明示化による社会科教師のゲートキーピング

ーストランドを用いた『日本の諸地域』の授業実践一」について、報告がされた。

- ・生徒のストランド（視点）が多様になる学習課題の設定が重要
- ・学習指導要領の目標を押さえた学習課題の設定の工夫

(vii) 「北方領土青少年等現地視察支援事業」（根室市、別海町、羅臼町、標津町、中標津町訪問）、「北方四島交流事業（色丹島）の参加者より、報告がされた。

(3) 第3回 3月12日(土)

①各自の研究授業の指導案を持ち寄り、協議を進めた。

②協議の中で、以下のことがまとめられた。

- ・どこで考えさせるのか、単元構成を練り上げることが大切
- ・導入の工夫は、重要。考えさせる材料(疑問が最初に多数出るような資料)を準備することが大切
- ・多面的・多角的な見方・考え方をさせるためには、単元を貫く視点が必要。たとえば、「アジア州」の場合は、世界地誌の最後に学習するとして、「多い人口」「経済発展」「日本にとって身近な国」というまとめをすることを前提に、授業を進めていく。
- ・新聞の活用も有効
- ・歴史的分野における絵画資料の工夫。絵画資料は、生徒にとって興味を示しやすく、理解しやすいものであるが、根拠が正しいかどうかの吟味は必要。「読み取る」だけでなく「読み解く」力も身に付けさせる必要がある。
- ・考えさせるための資料の提示として、「どこが同じで、どこが違うのか」といった「比較」、「自分の事実認識とどう違うのか、どうつながるのか」という「関連」を意識することが大切。

③「思考を促す学習課題の設定」について、会員から、具体的な学習課題の提示があり、それに基づき、全員で研究協議を行った。

(協議のまとめについては、4ページ以降参照)

④先行事例として、「生徒の主体的な学びを重視した授業の工夫・改善」について、都中社研研究部員より実践報告がされた。



【成果と課題】

(1) 成果

- ①指導案を基に実践報告をし、研究協議において、意見交換をすることにより、より実践的な指導法工夫に結びつけることができた。また、同年代の若手教員が多いため、日頃の授業で困っていることをざっくばらんに質問し、都中社研研究部員や指導教諭、参加した校長、顧問の先生より、アドバイスをいただくことで、「明日の授業」に生かすことができた。
- ②若手教員対象に、指導法の基礎・基本について、徹底を図ることができた。
- ③各種の先行事例を学ぶことにより、今後の社会科教育の方向性を知る機会となっている。
- ④都中社研の事業のほか、各種の研修会を紹介することにより、多摩地区の若手教員の研修意欲を高めることができた。

(2) 課題

- ①若手教員の指導力向上を図るため、引き続き、より実践的な指導法工夫を図る必要がある。

【第3回研修会 「思考を促す学習課題の設定」 協議のまとめ】

(1) 協議の内容

思考を促す授業改善には、学習課題の設定が重要であるという課題のもと、各会員が以下について、協議を進めた。

例) 「おいしい米づくり なぜ日本では米づくりに向かない地域で米づくりが盛んなのか」

「夏に売らない夏野菜 高知県のナスは一番東京に運ばれるのに、どうして旬の夏には東京であまり見かけないのだろう」

①会員が考えた「良い授業をするための学習課題の設定条件」

- ・生徒にとって、身近な話題、導入の工夫
生徒目線の課題設定
- ・ゴール（ねらい）が明確な課題
- ・単元を貫く課題、3年間で身に付けさせたい力が明確な課題
- ・考えさせるための資料＋考えさせるための基礎知識＋考えさせるための時間の確保の繰り返し
- ・学習内容が含まれているもの＋身近なもの（興味関心を高められる）（常識を覆す）＋正解がわからないもの

②協議の中から出た意見

- ・生徒自身が学習課題を見つける方法もあるのではないか。そのためには、考えさせる資料を導入で提示し、疑問をもたせ、課題設定をさせると、より主体的に追究していくことができる。
- ・学習課題には、2種類ある。「解があるもの」「解がないもの」。「解がないもの」については、答えが一つではない。「パフォーマンス課題」などがそれに当たる。たとえば、「九州地方のまとめ」として、「九州地方の自然環境をもとにした旅行計画」などが挙げられる。今までの知識や資料等を使って考えさせる過程が大切である。
- ・知的好奇心を揺さぶる導入が大切

(2) 講師の先生からの指導・助言

- ・学習課題には、「1単位時間の中の学習課題」「単元の中の学習課題」の2種類ある。
- ・常識を覆す課題設定が必要。「『?』を『!』にする課題」を探して行って欲しい。

例) 「ミシシッピ川が凍ると、日本の牛が風邪を引く」

「水で作られたピラミッド」(地歴融合の課題)

「フランス革命とケーキ」(地歴融合の課題)

